

平成26年度第1期えるのす連続講座～女性大学～

社会とつながり、心豊かに 開催結果の概要

月日	演題	講師
5/27 (火)	誰かの役に立って生きる—花凧の実践	NPO法人在宅生活支援サービスホーム花凧 理事長 木村美和子
6/3 (火)	口は「幸せ」のもと	北海道医療大学歯学部保健衛生学分野 教授 千葉逸朗
6/10 (火)	女性の貧困と社会保障—母子世帯を事例に—	北海学園大学経済学部地域経済学科 教授 中園桐代
6/17 (火)	震災とボランティア	札幌大谷大学社会学部地域社会学科 准教授 西浦功
7/1 (火)	腸内細菌と私たちの健康	北海道大学大学院農学研究院 准教授 園山慶
7/8 (火)	食用油から東南アジアと日本のつながりを考える	北星学園大学経済学部経済学科 教授 浦野真理子
7/15 (火)	映画のなかの北海道	北海学園大学人文学部日本文化学科 教授 大石和久
7/22 (火)	日本国憲法の改正について考える	札幌学院大学法学部 教授 伊藤雅康
7/29 (火)	定家の恋歌—その表現の形成史—	藤女子大学文学部日本語・日本文学科 教授 平田英夫
8/5 (火)	現在（いま）を知る	北海道新聞社 論説委員 貴志雅之

平成26年5月27日（火）



誰かの役に立って生きる—花凧の実践

NPO法人在宅生活支援サービスホーム花凧 理事長 木村美和子

「なりたい自分になる」を理念に、高齢者下宿や多機能店舗を運営している花凧。地域の誰もが心豊かに、ともに暮らしていける小規模多機能エリアを目指しています。講義では、花凧立ち上げのきっかけ、転機となった認知症の女性との共同生活、また、人と人とのつながりの大切さ、その人らしくあるためにどのような関わりが求められているかなど、豊富な実体験をお話いただきました。そして、一人ひとりの必要に向かい合うことが大事。その人ができることを見つけてあげる。誰かの役に立って生きてよかったと思えたら嬉しいとお話いただきました。

平成26年6月3日（火）

口は「幸せ」のもと

北海道医療大学歯学部保健衛生学分野 教授 千葉逸朗

口の中のことは意外と知らないものです。また、QOL（生活の質）と口の健康が密接に関連していることをご存知ですか？講義では、口の中が汚れていると肺炎や糖尿病などいろいろな病気の原因になりうること、口腔ケアにより病気の予防や口の機能改善、QOLの向上がのぞめることなど、口と歯は健康の入り口であるとお話いただきました。幸せ、楽しいと感じるのはどんな時かを尋ねると、食事やおしゃべりなど口と関係する回答が多くみられました。口の中の健康を保つのが目的ではなく、そのうえで何をすることが大切なのですね。



平成26年6月10日（火）

女性の貧困と社会保障—母子世帯を事例に—

北海学園大学経済学部地域経済学科 教授 中園桐代



一人暮らしの女性（20～64歳）の1/3、高齢者では半数以上が「貧困」な状態で暮らしています。なぜ女性は「貧困」なのでしょう？講義では、「見えない貧困」だった女性の貧困が見えてきたのは「家族」が変化したから。日本では性別役割分業意識が強く、女性の賃金は「追加的収入」とみなされ、家族を養うことを前提としていない。母子家庭の母の多くは働いているが、非正規雇用が多く、所得は少なく社会保障のカバーも弱いことが貧困につながっている。夫婦はもちろん、女性、ひとり親でも子育てができる経済支援と生活保障が求められるとお話いただきました。

平成26年6月17日（火）

震災とボランティア

札幌大谷大学社会学部地域社会学科 准教授 西浦功

ここ20年で2度の大地震に見舞われた日本。非常時の様々な危機を乗り越えるために必要なボランティアの役割とは何でしょうか。講義では、ボランティアという言葉の由来やボランティア活動の歴史について、また、阪神大震災での教訓、東日本大震災で生じたボランティア・コーディネートの機能不全等についてお話いただきました。そして、被災地の状況に合わせた災害ボランティアのしくみの見直しが必要。解決の難しい問題には相応の理由がある。様々な場面での「受容」の姿勢が大切とお話いただきました。



平成26年7月1日（火）

腸内細菌と私たちの健康

北海道大学大学院農学研究院 准教授 園山慶



私たちは腸内細菌と共生する超生命体です。私たちが健康に生きる上で腸内細菌はどのような役割を果たしているのでしょうか。講義では、腸内細菌の調べ方について説明いただくとともに、健康的な腸内細菌を増やすことで、免疫機能の発達やメタボ改善など、体質を改善したり病気を予防できるということがだんだんとわかってきていることなど、腸内細菌が私たちにどのように働きかけているのか、健康にどう役立てていけるのかについて、最新の研究を紹介いただきながらお話いただきました。

平成26年7月8日（火）

食用油から東南アジアと日本のつながりを考える

北星学園大学経済学部経済学科 教授 浦野真理子

世界で最も消費されている食用油はパーム油。アブラヤシの実から作られ、多くの食品に使われています。日本も経済成長とともに油脂の消費が増大。パーム油は日本人の生活にも入り込んでいます。講義では、アブラヤシの生産方式などを説明いただくとともに、土地の収奪や格差問題といった地域社会への影響、森林火災や土壌劣化などの環境問題、出稼ぎ労働者が多数を占めている労働問題など、アブラヤシの生産が現地に与える影響についてお話いただきながら、東南アジアとの関係の中で、日本でできることは何かについて考えました。



平成26年7月15日(火)



映画のなかの北海道

北海学園大学人文学部日本文化学科 教授 大石和久

北海道は映画ロケのメッカ。北海道でロケが行なわれた映画は実に400本以上にのぼります。では、北海道ロケ映画にはどのような特徴があるのでしょうか。講義では、外国文学の翻案映画化の舞台となるなど、日本でありながらも非日本であるようなエキゾチックな場所として描かれてきたように、北海道をロケ地とした映画は北海道を異国に見立てる傾向にあること、また、そのように北海道が異国の隠喩として描かれてきた要因などについて、数々の北海道ロケ映画を取り上げながらお話いただきました。

平成26年7月22日(火)

日本国憲法の改正について考える

札幌学院大学法学部 教授 伊藤雅康

2012年自民党が「日本国憲法改正草案」を発表。一時期下火となっていた憲法改正に改めて注目が寄せられるようになりました。憲法改正について私たちはどのように考えていけばよいのでしょうか。講義では、日本国憲法の改正規定、憲法改正の「作法」や「限界」などについて説明いただくとともに、今年7月1日の集団的自衛権に関する閣議決定など、昨今の改憲問題についてお話いただきながら、憲法改正権者のひとりとして判断を下す立場になるときに意識したい事柄について考えました。



平成26年7月29日(火)



定家の恋歌—その表現の形成史—

藤女子大学文学部日本語・日本文学科 教授 平田英夫

平安末期から鎌倉期にかけて活躍した藤原定家。恋歌を得意とした歌人で、男を待ち、恋に悩む「女性」の視点で歌を詠むことに優れていました。講義では、20代から30代にかけての若い定家が詠んだ作品に注目しながら、その和歌表現の形成史をみるとともに、本来、プライベートな男女の恋のやり取りをするコミュニケーションツールとして「日常」のものであった和歌が、いかにして文芸的な作品として展開されるようになったかについてお話いただきました。

平成26年8月5日(火)

現在(いま)を知る

北海道新聞社論説委員 貴志雅之

今年5月、全国1800市区町村の約半分に当たる896自治体が将来消滅する可能性があるとの記事が新聞に掲載されました。私たちが住む北海道も16年連続で人口が減少、深刻な問題となっています。講義では、人口減少は経済活動の収縮を生み、税収減から行政サービスの低下が考えられること、道内では179市町村のうち約6割で人口減対策が手つかずになっている現状などについて説明いただきました。そして、人口減少は急には止まらない。人口減少を前提に、安心できる社会づくりを考えていかなければならないとお話いただきました。

